

～トータル・フォレスト・サービスを目指す林業経営～ 佐ヶ山 幹彦さん（久万高原町）

株式会社さんえい 代表取締役
上浮穴林業研究グループ連絡協議会 副会長

1961年生まれ



☆経営概況☆

林業事業体「株式会社さんえい」を平成20年に設立し、現在は7名の社員とともに、高性能林業機械を活用した間伐等の施業を中心に、地域の主要産業である林業を担っている。また、「上浮穴高校森林環境科インターンシップ」の受入や「久万林業まつり」へ積極的に参加するなど、上浮穴林業研究グループ連絡協議会の副会長として、林業のイメージアップも図っており、若い林業従事者の育成にも努める地域リーダーである。

☆ここがポイント☆

■異業種（測量会社勤務）から林業に参入！

土木事業の仕事が減少していた中で、久万高原町の主要産業である林業に参入した。参入に当たっては、県の林業研究センターで1年間研修を受けて、作業システムの基本を習得したうえで、地域の林業経験者2名と林業会社を立ち上げた。

初めは高性能林業機械を持たないゼロからの出発で、他の先発林業事業体にどうやって追いつくかが課題であったが、低コスト化のための森林内の道づくりには、測量を行っていた時の経験を生かしたり、県の補助制度を活用して機械化を進めるなどで、林業経営の安定化に取り組んだ。

林業に参入した時点で、木材価格はすでに安かったことから、現在の林業に違和感なく、覚悟を決めて経営を行っている。

☆チェーンソーで立木を伐倒



☆プロセッサで伐倒木を玉切

☆フォワーダで素材を運搬



素材
供給



☆グラブで素材を積込

【普段の生活について】

■社員とともに木材の伐採・搬出現場へ

久万高原町を中心とする近隣市町のスギ・ヒノキ林が仕事の現場であり、日曜日は原則お休みとしている。しかし、野外作業には雨が付きものであり、雨の日は休みとして仕事を調整しながら、月に少なくとも15日から最大24日ほどの仕事を行っている。会社経営としては、雨降り対策（仕事の確保）が課題となっている。

社員の雇用を守り経営を維持し、高性能林業機械の更新（新しい機械に買い換え）などを図るため、年間の木材生産15～16千m³を目標に、一人当たり生産量2,000m³／年を目指している。

○所有する高性能林業機械

ハーベスタ1台、プロセッサ2台、グラップル6台
フォワーダ5台、ザウルスロボ1台など

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日	
【天気がよい時】		作業等（伐採・搬出・機械運転）					（休み） ↔
【雨天時】		（休み） ↔					

☆若い社員の皆さんと



☆上浮穴高校インターンシップ

☆これからの夢や目指すもの☆

■木質バイオマス利用で森林資源の総合利用を！

先人が育ててきた森林を有効に活用するため、発電用等の木質バイオマス利用を進めるなど、森林資源の総合利用を目指していく。

他の林業事業体等と連携を強化して、バイオマス利用の協同組合設立などにも取り組んでみたい。

☆メッセージ☆

■間伐から主伐・再造林まで

～トータル・フォレスト・サービスを目指して～

生産性の向上と年間作業の確保を図るため、これまでの搬出間伐に加えて、主伐の事業量確保に努めている。架線集材や低コスト再造林などの技術向上で、さらなる効率化も目指すとともに、次の世代へ林業経営を引き継いでいきたい。